

平成二十八年二月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十四卷 第二号 通卷七十三号

書 象



日本書道芸術協会

2016-2

巻頭言

五五回書象展を皆さんと共に

会長 田中節山

上條先生が、第一回展を銀座画廊（現在の銀座画廊美術館）で開催されてから今年には五五回展を迎えます。今までにどれほど多くの会員の出品があったのでしょうか。

次に今回のイベントを少しだけ紹介いたします。

- ① 上條信山先生仮名作品展
- ② 幹部九彩展（仮称）
- ③ 記念表彰式
- ④ デモンストレーション
- ⑤ 会員による祝賀会

○書象展の出品は中央展への登竜門

書象会では月刊「書象」が会員の基本勉強の場です。条幅部門にチャレンジをしたら次は書象展への参加です。

田中節山書「隆熾」(盛んで勢いのよいこと) 首相官邸収蔵作品



各支部での勉強と書象会主催の添削会への参加で、技術の向上を目指していきましょう。

○書象展に出品して、多くの会員の出品作品を鑑賞しましょう。鑑賞も技術向上につながります。

○記念表彰式

書象会の大きな喜びの日です。会員の皆さんとセレモニーをしたいと考えています。中には五五回の連続出品者もいます。

ここに掲載の「隆熾」は昨年の書象展に出品したものです。昨年末に首相官邸に収蔵されました。安倍総理大臣と接見し総理の学生時代を懐かしく歓談いたしました。



山鐘、夜雪の時

2月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は罫線入りですが、出品者は罫線のない半紙を使用してください。

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書

忽 見 来
書 褒 揚

忽ち来書を見るに、褒揚（讚述）せらる。

2月20日必着
出品券を貼付

文字の大小に注意してバランス良く。筆脈を意識して動きのある作品に仕上げる。

【忽】の斜画は平行に。
【心】の点は等分割、右上りに。

【見】最終画の位置に注意。払いはやや右上に。

【来】横画は平行に。全体に縦長。

【書】横画は平行・等分割に。

【褒】横画・斜画を伸びやかに。

【揚】偏はたて長房は巾広く。中心の位置正確に。

揚

褒

書

来

見

忽

尤も繁し



・今回、下の「繁」は巧みな連綿線で書かれている。これを軽快に仕上げることが作品の出来を大きく左右する。

尤：二画目は中心線上から書き出す。

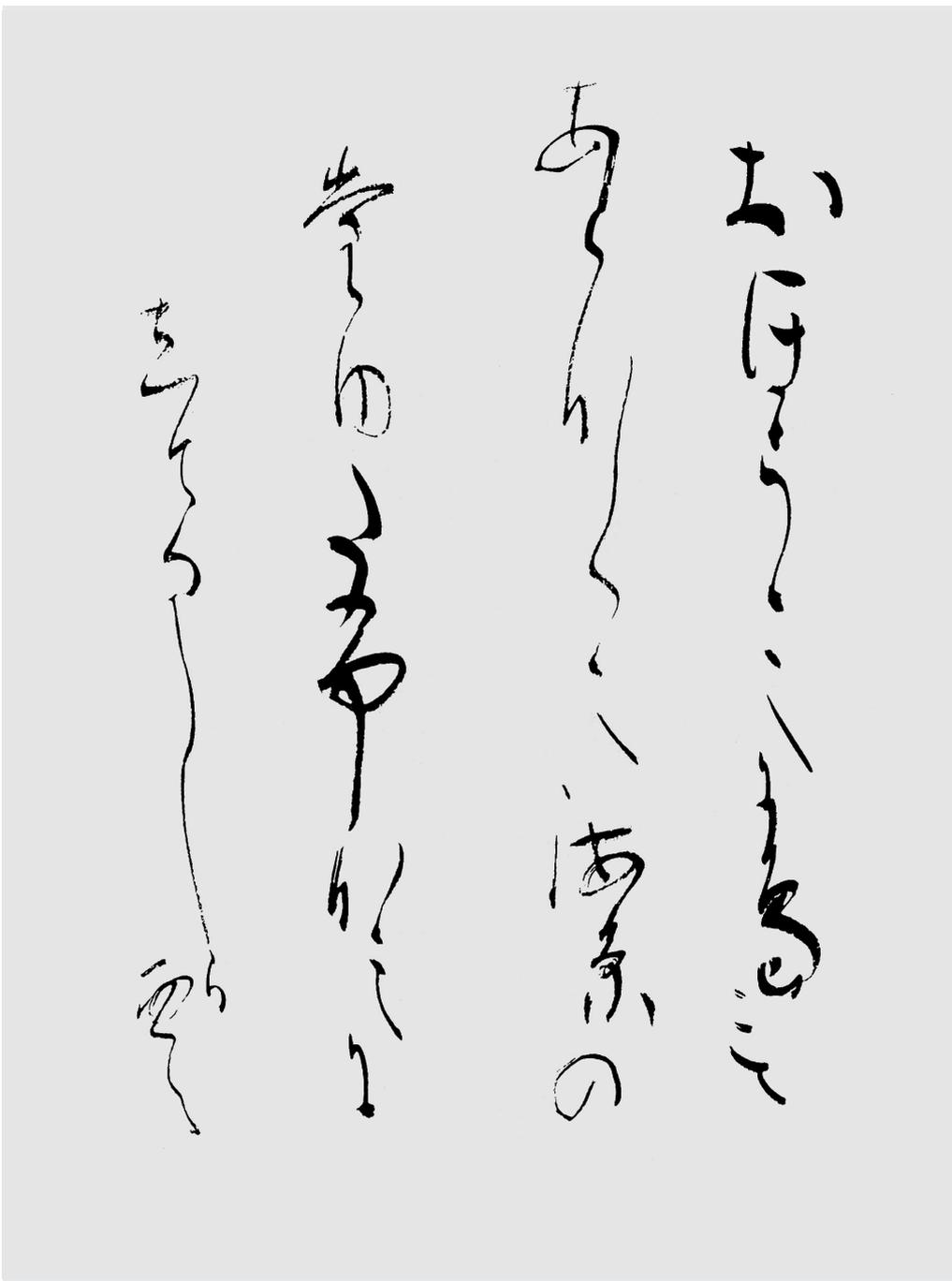


繁：下の「糸」は中心線より右へ。「糸」の五画目は左へ強く張り出す。



仮名規定【仮規】 (師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書



おほうみ (三) に (尔) 島も (毛) あらな (那) くに (二)
 海原のた (堂) ゆた (多) ふ (布) な (那) み (三) に (尔) 立てるしら雲 (万葉集)

2月20日必着
 出品券を貼付

・大胆な含墨とリズム
 よい渴筆の組み合わせで
 明らかな表現になっている。
 よく部分練習をして、大らかな
 動きを覚えてほしい。

【島】

島

【海原】

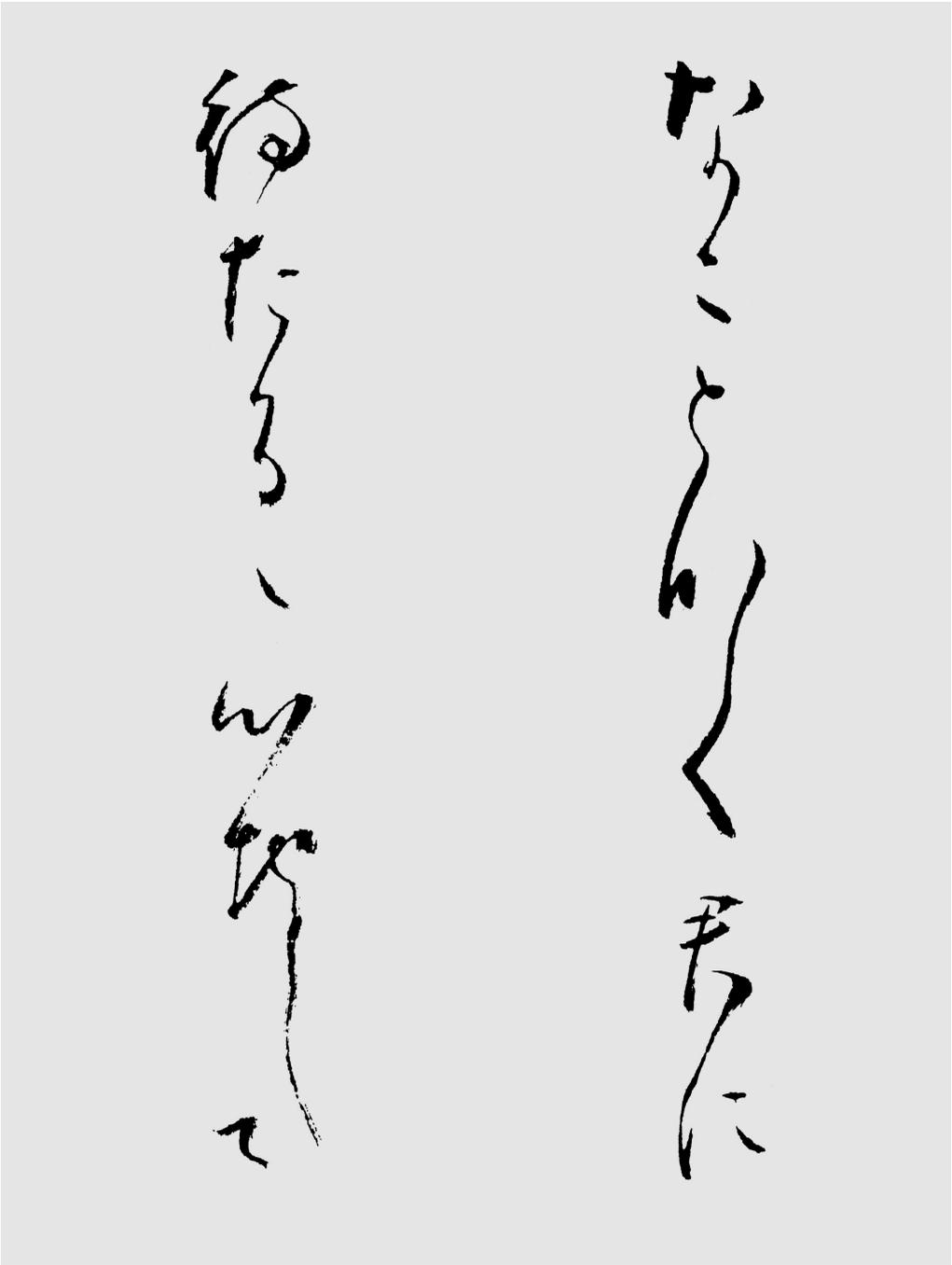
海原

【雲】

雲

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



なに(二)とな(那)く君に
待たる心地して

・始めから終りまで気脈を意識する。



・直線と曲線の使い分けを見極め、ゆったりとした運筆を心がける。



「心地」



滄海のうち一滴の貢

献わが校の名に光明

を増さしめむ

功成るときわが校の名に光明を増さしめむ

滄海のうち一滴の貢

2月20日必着 出品券を貼付
入選作のみ発表します

・肉筆で書かれた原本を想い、筆勢、にじみ、カスレなどを工夫して表現してみる。

・漢字は大きめに仮名はやや小さめに。

・滄海

滄海

・一滴

一滴

・貢献

貢献

・増

増

漢字条幅規定【条規】

市澤静山先生書

段級位を明記のこと



寒往きて熙春来る (高士奇)

- ・中心の一貫を心がけて、流れよく書く
- ・筆を傾けないようにして、左右のハライ等息長く見せる。

仮名条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



軒下の(能)紅梅の(農)花に(ふ)りそそ(ぐ)は(者)る雨さ(佐)むし雪に(可)か(可)な(那)るか(可)

- ・最初に十分に墨を入れ、途中墨継ぎをせず最後まで一気に書く。
- ・「軒」「梅」の形はP14を参照。

故生 鄉札

中学一年規定 【学毛】

虎井曉鐘先生書

感覺 現的

中学二・三年規定 【学毛】

市澤靜山先生書

太心
陽に

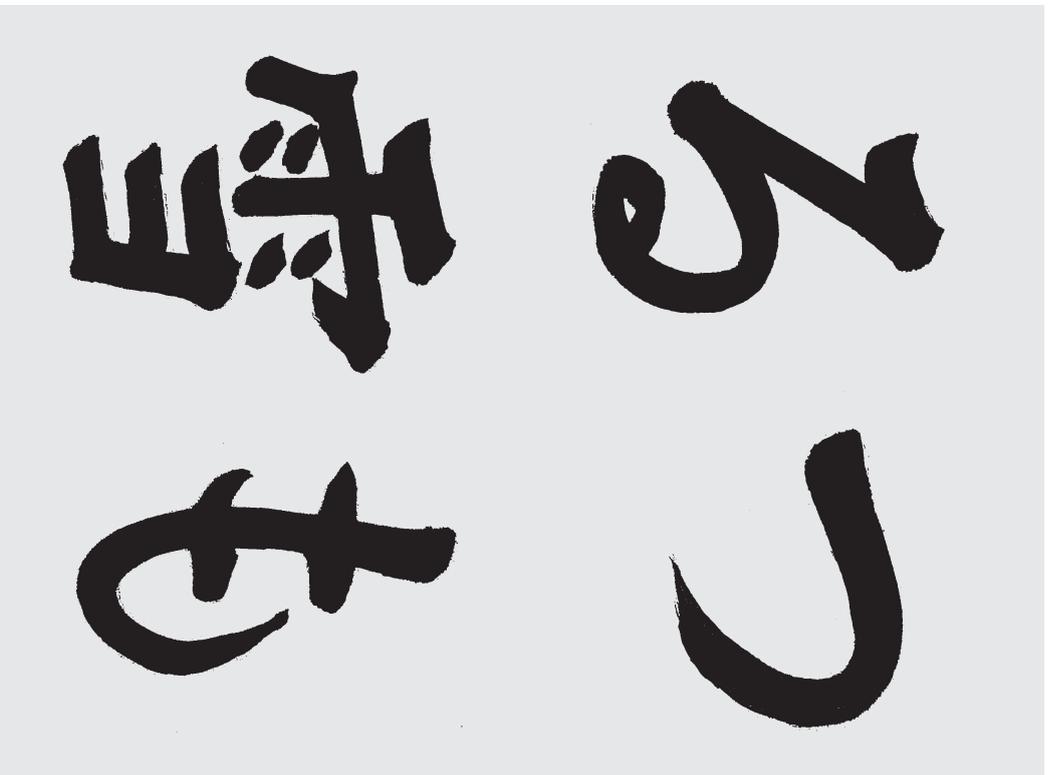
小学五年規定 【学毛】

宮本耕成先生書

梅早
花春

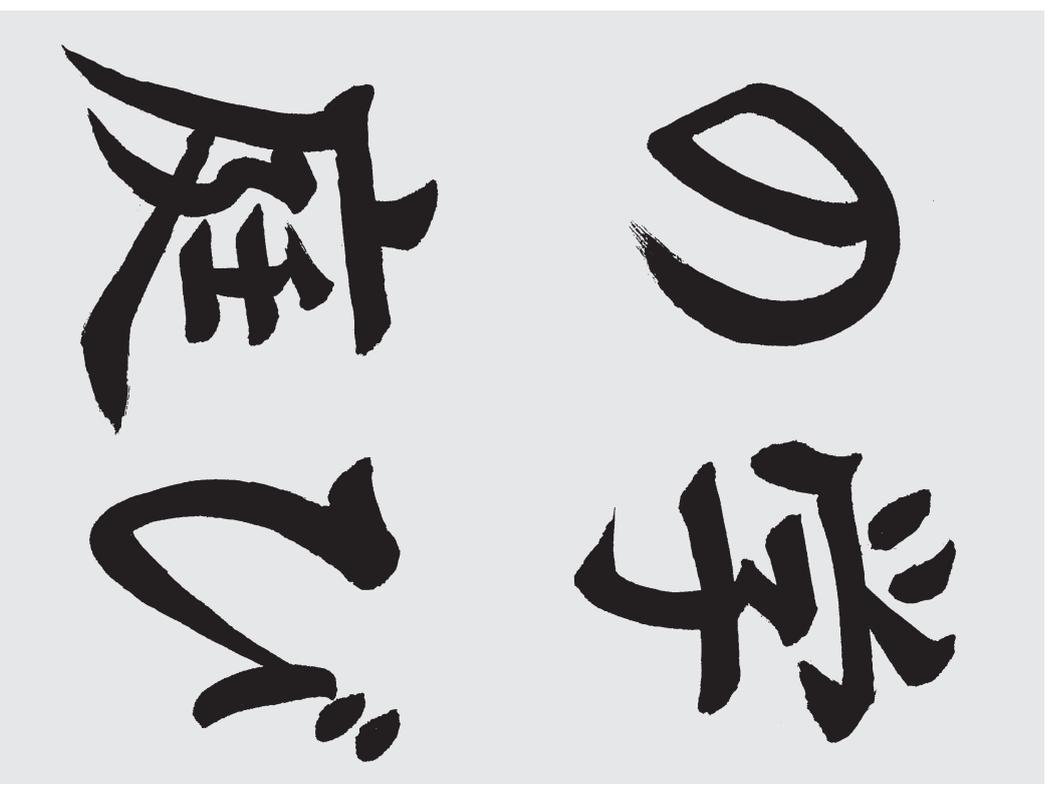
小学六年規定 【学毛】

中村嶺山先生書



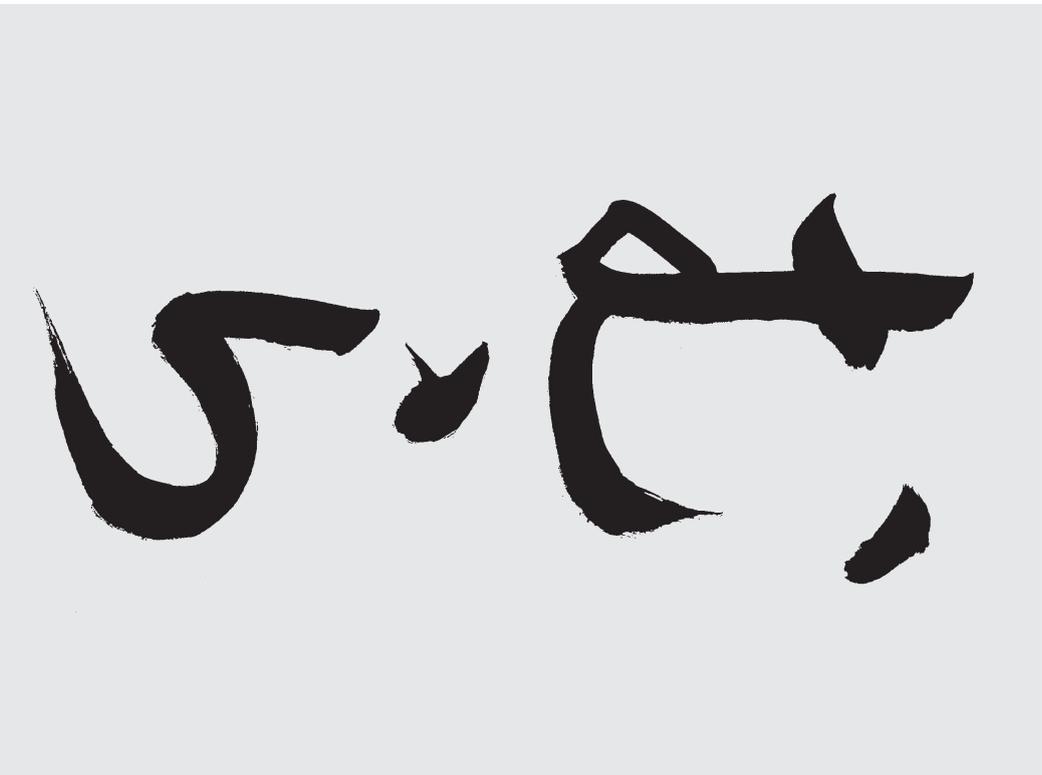
小学三年規定 【学毛】

大澤梢光先生書



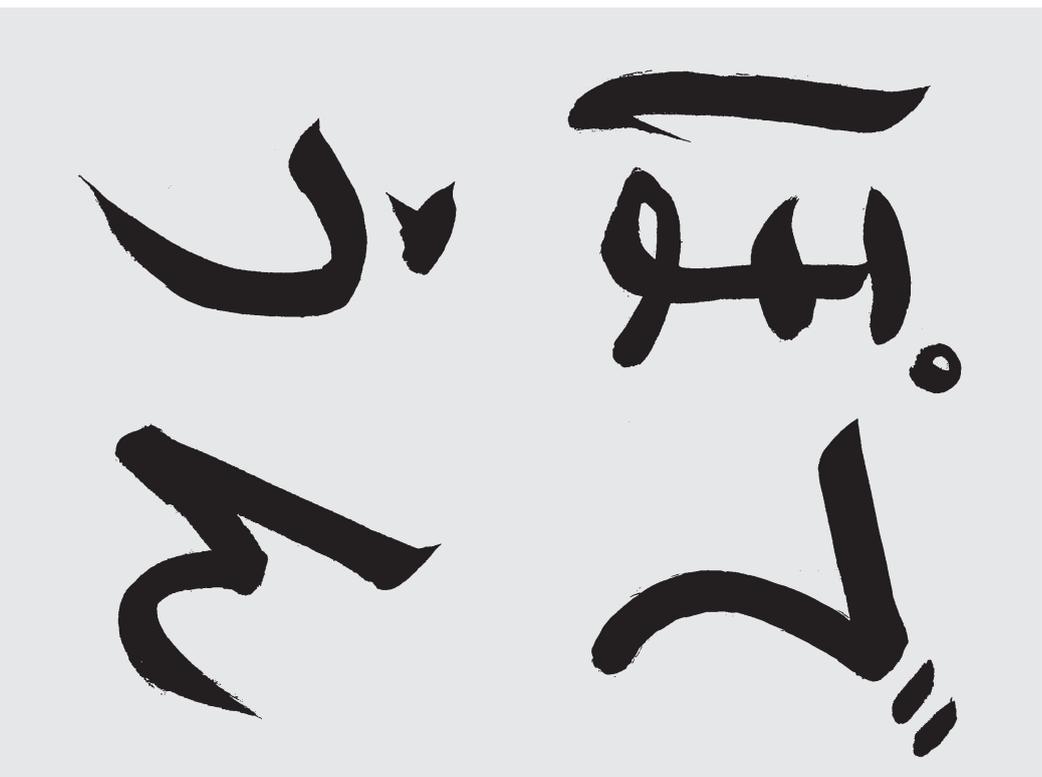
小学四年規定 【学毛】

高瀬霞山先生書



小学一年規定 【学毛】

末永曉華先生書



小学二年規定 【学毛】

荻田光山先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

筆によって表現される美しさ素晴らしさに
すっかりみせられてしまいました。

筆によつて表現される美しさ素晴らしさに、
すっかりみせられてしまいました。

一般規定【一硬】(級位)

内藤 望山 先生書

国境の山々の雪景色が、小さいだ。
よく晴れた空を、背景に美しく
浮かんでくる。

中学規定【学硬】

樋口 玄山 先生書

オオイヌノフグリ、別名は星のひ
とみ。固まって咲く様は、路傍にこ
ぼれた金銀砂子。

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付して下さい。

小 一・二年 学	林	小 三・四年 学	旅
小 五・六年 学	半島	中 学	国境

手本解説

・基本「山鐘夜雪時」は左図参照。

・仮名条幅随意「軒」「梅」は左図参照。

山
鐘
夜
雪
時
軒
梅

学生部規定

現代
的
感
覚

中学二・三年

今回は行書で書かれています。行書の特
徴は幾つかありますが、その一つに「点
画が連続することがある」とあります。
今回は、どこがどのように連続してい
るのか、よく確かめてから書きましょう。

生
ま
れ
故
郷

中学一年

「生」の二・四・五画目の横画の方向は
少し変わる。五画目は力強く長めに引く。
「ま」の二画目はやや右上がりに。
「故」の偏と旁の重心を中心線に寄せる。
「郷」の三つの部分をほぼ等しく。

小学五・六年規定【学硬】

芦川臨泉先生書

今日学校でクラスの友達と
休み時間に雪合戦をして楽
しく遊びました。

名前

支部 年

級段

小学三・四年規定【学硬】

小 瀧 石 峯 先 生 書

コンピュータに文字や記号
などを入れることを入力
といいます。

名前

支部 年

級段

小学一・二年規定【学硬】

久保妍山先生書

え	冬	小
て	の	さ
い	き	な
る	び	木
。	し	の
	さ	め
	に	が
	た	、

なまえ
支部 年
きゅう

※出品券を貼付して下さい。

一般(師範・準師範・段位)・一般(級位)・中学生はペン使用のこと(中学生は鉛筆も可)。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを18cm×7cm(小)・12cm×7cm(小)・12cm×10cm(小)の紙を使用する。小三・四・五・六課題は2.1cm巾の罫線を引く。



小学六年

「早」は文字の中心をおさえて左右をバランスよく。「春」は上部の横画の長さの長短に注意。左右の払いをゆったりし。「梅」は隣の横画の右方向に着目する。「花」は払い、はね等の筆使いを正しく。



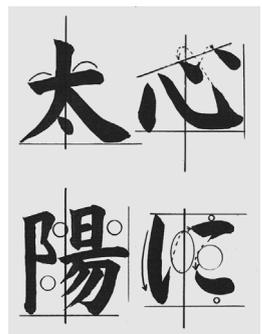
小学四年

「学」はツの筆順、「の」は始筆と終筆、そのりに気をつける。「び」は◎で筆を止めてから次に進めるようにする。「庭」の小さな点画もていねいに書き、「えん」の「ん」の画の長さ方向に注意。



小学二年

「で」の書き出しは右上がりに、そのり文字の中心辺りまで。「ん」は斜画の中心で折るかえし、○の空間を広げに作る。「は」の二・三画目は同じ長さに。「う」は縦長の字形にする。



小学五年

「心」は四画目(点)が外へ出過ぎないように。「太」の横画は中心線より左右の長さを等しく。「陽」は偏と隣の組み立てに気をつけ「日」の幅を広げない。



小学三年

「つ」は少し右上がりに書き出し、文字の中心で終筆。「も」は筆順をまちがえないように。「る」は最初の横画と結びを文字の中心に。「雪」は二・三画目の終筆に注意する。



小学一年

「む」の左半分の重量は、右の上への払いと最後の点とでバランスをとる。「ら」は二画目の点を文字の中心にとり、縦画と後半の丸みでバランスをとる。

争坐位文稿

顔真卿 (七〇九〜七八五年)

今月のテーマ

表現的臨書 (A)

中字 (四字〜六字)

表現的臨書

(A) 線に主観を加える

〈ねらい〉 自己の要求に応ずる線を、古典の形を借りて自在に表現する。

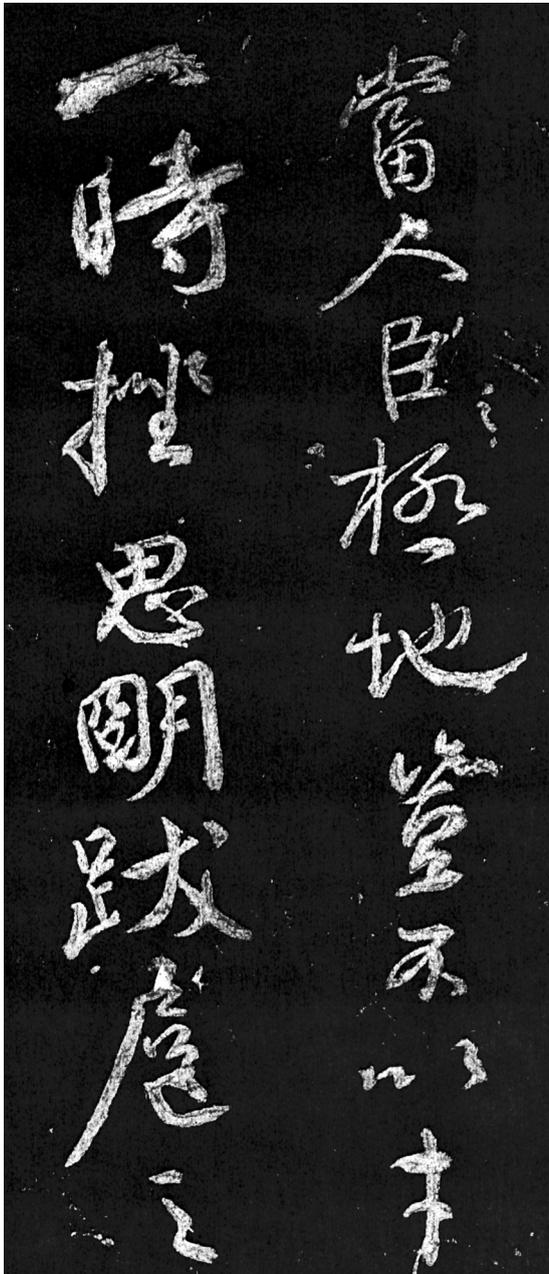
〈学習①〉 課題の古典の中から四〜六字を選び、写實的臨書をして、その形をしっかりとらえておく。そしてその形を用いて、次のような作者の芸術的意志 (表現意志) を次々に加えて、様々な線表現を試みる。

- ① いろいろな用紙を用いる
- ② 運筆に変化を与える——(ア)筆圧を変化させる (イ)遅速、緩急をつける (ウ)細太、強弱をつける
- ③ 筆の種類を変える——細太、長短、剛柔、竹筆、鶏毛筆、その他自己創案の筆などを使ってみる
- ④ 墨色をさまざまに工夫する——濃墨、淡墨、にじみ、かすれ等を効果的に用いる

〈学習②〉 右の要素をいろいろとりまぜて、全く独自の新しい線表現を試みる。

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ② 続き文字でなくても構いません。
 - ③ 落款を入れて下さい。
 - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして制作意図も書いて下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。
- (編集部)



〈釈文〉

當人臣之極地豈不以才一時挫思明跋扈之

松本市美術館便り

上條信山記念展示室 平成二十八年一月十九日(火)～五月八日(日)

源流を遡る

誰しも人生において幾度かの転機を経験します。自ら強く望んで成し得た転機、成り行きに任せた偶然の転機……。とりわけ師との出会いは、時にその後の生き方を一変させる影響力があります。

書の歴史、それは先人が遺した優れた書跡の積み上げと、師弟による書美の継承・発展の上に脈々と繋がる史実と言えます。その中で上條信山先生は、師・宮島詠士との出会いをきっかけに自身の書を切り拓くことになりました。

本展示では、上條先生の「転機」の書に併せ、その書家人生の原点となった師の系譜を辿ります。単なる書風の継承ではない、師弟が紡ぐ気高く深奥な書の世界をご覧ください。

上條信山記念展示室展示作品

No.	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	主要展覧会
1	上條信山	臨 張猛龍碑	昭和18年(1943)	132.1×28.8	日滿支三国展
2		杜甫詩「春望」	昭和23年(1948)	135.0×46.0	第1回毎日書道展
3		谷神不死	昭和37年(1962)	202.3×68.2	第5回新日展
4		堅勁	昭和44年(1969)	132.2×60.4	改組第1回日展 (内閣総理大臣賞)
5		相忘	昭和54年(1979)	90.0×164.0	改組第11回日展
6		壮心	昭和62年(1987)	81.8×153.2	改組第19回日展
7		張裕釗・宮島大八 師生紀念碑碑陽(拓本) ※中国保定市	昭和61年(1986)	202.5×68.8	
8		張裕釗・宮島大八 師生紀念碑碑陰(拓本) ※中国保定市	昭和61年(1986)	188.8×83.5	
9		張裕釗・宮島詠士 師生紀念碑(拓本) ※中国鄂州市	平成6年(1994)	145.3×68.5	
10		張裕釗公墓碑(拓本) 中国鄂州市	平成6年(1994)	123.8×68.9	
11	宮島詠士	張廉卿詩(武昌一老…)		32.7×111.1	
12		天高氣清		34.0×123.7	
13		七言絶句(此中天地…)		28.7×40.3	
14		習作(故郷可朕…)		22.1×31.6	
15		於予乎改之		18.2×51.2	
16		延命十句観音経	昭和4年(1929)	27.5×23.5	
17		蝸牛之天地		135.0×66.3	
18	張廉卿	七言対聯		各124.5×28.4	
19		八言対聯		各168.8×44.8	
20		少年学書…		21.1×28.4	



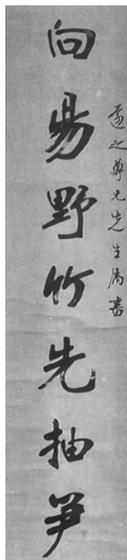
宮島詠士
天高氣清



上條信山先生・堅勁



張裕釗・七言対聯



張裕釗・宮島詠士師生紀念碑

内藤望山書作展

会期◎平成27年11月3日～8日
 会場◎東京銀座画廊・美術館（8階）
 後援◎読売新聞社・全日本書道連盟
 全国書美術振興会・書象会

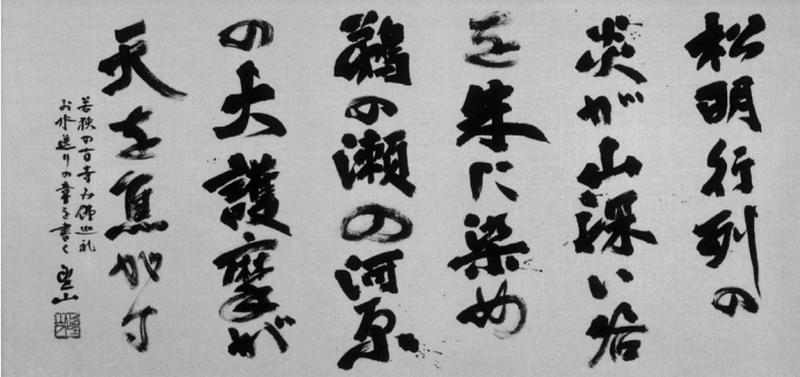
漢碑氣魄魏碑骨
 一三五×一三五



廉潔
 一六二×七四



若狭お水送り
 一〇〇×三〇〇



師上條信山先生の門に学び、一途に書と対峙して来ました。半世紀を過ぎた頃、これまでの自己の歩みを見つめ直し、向後の方向模索の端緒となすべく個展開催を決意しました。会場予約から三年六ヶ月の準備期間はまたたく間に過ぎる中、何とか大小六十点を仕上げました。会期中書道界、書象会関係の方々が多数ご参観下さいました。謹んでお礼申し上げます。（内藤 望山）

杜少陵詩句
 一三五×三五×二



初日榎倉香邨先生が早々にご来場



節臨張猛龍碑

一七三×七〇

君體稟河靈神資岳秀
桂質蘭儀點弱露以懷
芳若新蘅之當春

節臨張猛龍碑
三五五×三六〇

飛瀑赤炎

二〇〇×五三

飛瀑赤炎

空山

李太白詩

二〇〇×五三×四

千房赤虎甯破產不為
家浪海得杜士指秦博
惜少親轉能不成天地
皆振動潛匿遊下邳豈

日非智勇我果也鶴上
像古欽美風唯見碧流

水曾無黃石公歎息此人
三蕭陸徐河空



日展理事
星 弘道先生



謙慎書道会理事長
高木聖雨先生



日展会員、土橋靖子先生、同綿引滔天先生と
楽しく談笑！

〈門人のコメント〉

三年半に及ぶ制作期間には想像を絶する強靱な精神力が貫かれている。それを肌で感じることのできる作品展でした。

(江上 玄光)

四年近く、多種多様の作品に取り組みましたお姿を目にしてきた私共は、個展の大成功を大変うれしく思います。

(関 香風)

平成二十七年秋季師範特待生昇格試験合格者

【楷書】

Table listing names of students in the Kaku (楷書) category, organized by school or region. Includes names like 北府, 笠原, 乙訓, etc.

【漢字条幅】

Table listing names of students in the Kanji (漢字条幅) category. Includes names like 榎森, 上北, 北野, etc.

【隷書条幅】

Table listing names of students in the Leishu (隷書条幅) category. Includes names like 大飯, 西野, 吉垣, etc.

【硬筆】

Table listing names of students in the Hard Pen (硬筆) category. Includes names like 龍文, 正書, 大上, etc.

特待生

小・中学生準八段に達した者は「特待生試験」合格により八段特待生となる。「8級下」から始め、四十二階級を登りつめた栄誉を讃え、賞状ならびに副賞として墨と楯（左写真）を贈るものである。

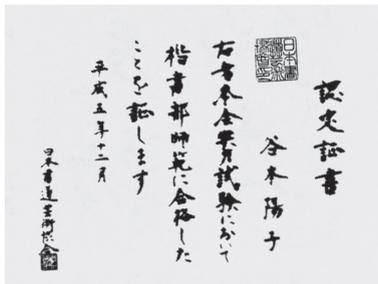


認定証の申込みについて

師範昇格試験において、正師範・師範・準師範に合格し、その認定証を希望される方は、該当各書体の合格年月を記入した申し込み書に費用を添えて書象会本部庶務部までお送り下さい。

尚、お申し込みただいてから認定証の発送までに、若干時間のかかる場合がございます。ご了承下さい。

- 正師範 五体 五〇、〇〇〇円
- 師 範 一体に付 五、〇〇〇円
- 準師範 一体に付 四、〇〇〇円



看板の頒布のお知らせ

書塾用に看板を用意しております。ご希望の方は左記の要領でお申込み下さい。

◎資格条件

書象誌において、一体でも師範に合格した方。

◎申請料

三万円（送料・税込み）

◎材質・寸法

- 檜無垢 A タテ六〇cm×ヨコ一五cm×厚さ二cm
- B タテ四五cm×ヨコ一三cm×厚さ二cm
- ※A・B共に貼り囷入り

◎申請方法

師範合格書体・年月と御希望の寸法A・Bのどちらかを記入して、申請料と共に書象会庶務部まで、現金封筒でお申し込み下さい。

◎お問い合わせ・申請先

☎ 180-0001 武蔵野市吉祥寺北町四一三一六
書象会 庶務部
☎・FAX 〇四二一五三一九七四三



昇段級試験特集

平成二十七年年度秋季昇段級試験の合格作品の秀作と審査評を掲載いたします。合格率は、師範77%（受験者二四九名）、準師範67%（同三〇二名）、特待生57%（同三三八名）でした。

今回の師範、準師範試験の傾向についてお知らせします。行書の課題ではくずし方が曖昧な作品が見られました。自信をもって書くためにも正確なくずし方を確認してから臨んでください。仮名では墨の使い方がポイントです。濃すぎず、薄すぎず、自然な筆運びができる濃度を見つけてみましょう。また、墨は紙の影響も受けます。色々な紙を試してみてもよいでしょう。

特待生では筆遣いに改善の余地があるようです。特に始筆や終筆への意識は規範的な文字を書く上で大切です。また、名前の入れ方もぜひ研究してください。大きさと位置への配慮は作品全体の印象に大きく関係します。掲載作品を参考に、今後の学習に生かしてください。

（編集部）

師範 笠原 丸山美加子



笠原 準師範 美加子

起筆の切り込み、力加減をしつかり把握し、安定した運筆が厚み切った心の平安を見せている。

師範 秀雪 大場 渚



秀雪 準師範 渚

しっかり筆を立てて、伸びやかな心で筆が運べた。相当な枚数を書き込み、余白美もしっかり手に入っている。

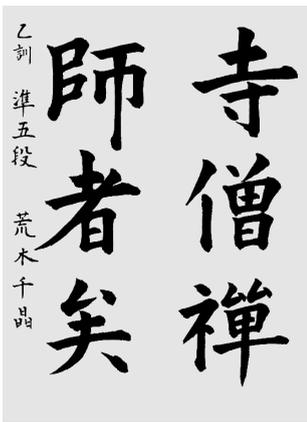
師範 高風 服部佐和子



高風 準師範 佐和子

濃墨をしっかり紙面になじませる修練の力を感じる。技法も正確で、収筆のまとめ方も美しい。

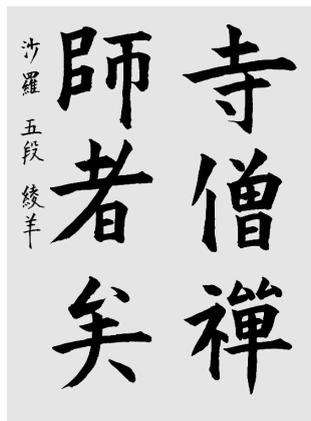
準師範 乙訓 荒木 千晶



乙訓 準五段 荒木千晶

一点一画充実した運筆で練度の高さがうかがえる。一行目、やや中心がずれたのが、品格の高さが補って余る。

準師範 沙羅 福島 綾羊



沙羅 五段 綾羊

伸びやかな筆使いで、形・線共に技量の高さがうかがえる。さわやかで明るい作品となった。

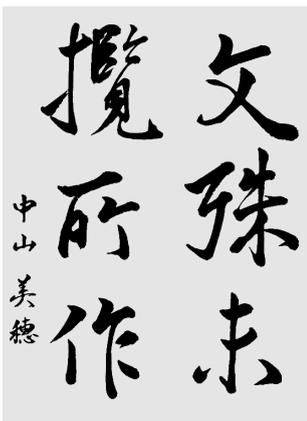
師範 茅野 長島 正純



茅野 準師範 長島正純

力強い筆運びで生き生きとした作品に仕上がった。文字の大小も美しく調和し秀逸。

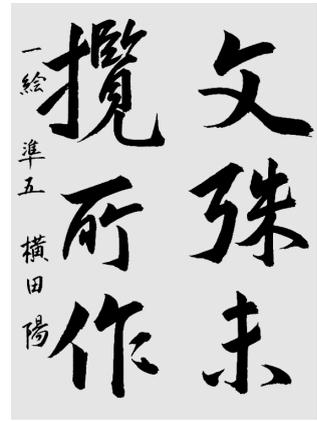
師範 富士 中山 美穂



中山美穂

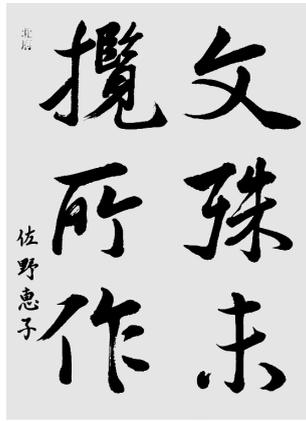
リズム良く、ダイナミックな運筆で明るい作品である。平素の錬成の深さがいかに発揮された。

準師範 一絵 横田 陽



大きな動きで、しかも骨力のある線で堂々と書かれている。文字構造も広く、格調高い作品に仕上がった。

準師範 北府 佐野 恵子



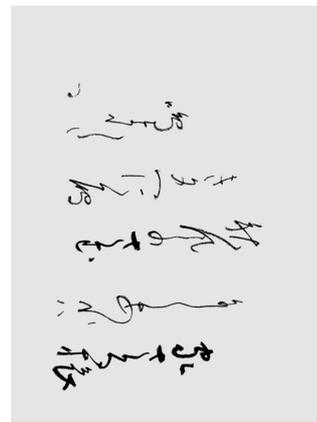
弾力のある伸びやかな線で書かれ、空間の広さも生かされておおり、明るい作品に仕上がった。秀作である。

準師範 静 長谷川美樹



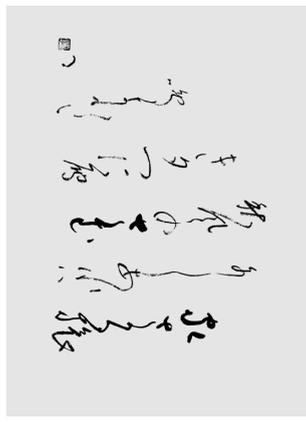
余白を広めにとり、各行の文字の中心が一本の線で貫かれており安定感がある。墨量も程よくあり申し分ない。

師範 相模 木内 良子



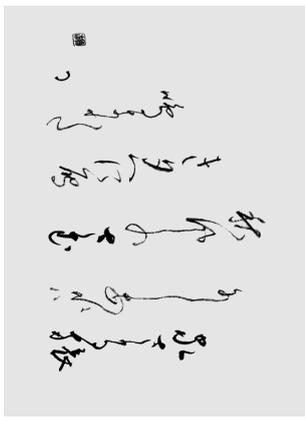
ゆったりとしたおらかな線と伸びやかである。行頭行末の処置、行間のとり方、墨色の变化など適切である。

師範 葉月 向井美奈子



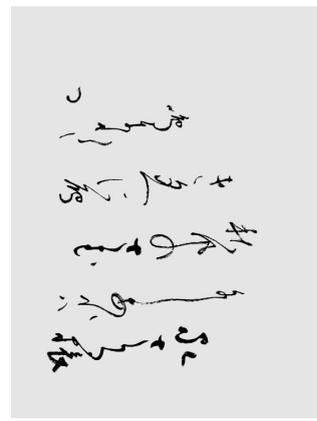
紙面に墨がよく食い込みしつとりとした作品に仕上がっている。各行をやや左に倒したのも面白がある。

師範 有穂 高橋 穂波



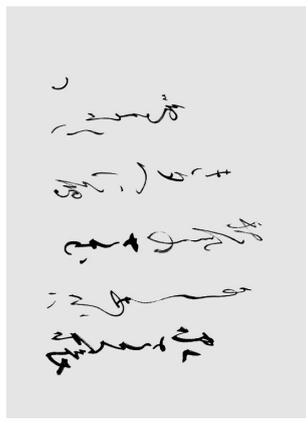
料紙が一層作品を美しく引き立たせている。潤濁の变化、線質、連綿線、各行の位置などいずれも申し分ない。

準師範 八南 佐藤美恵子



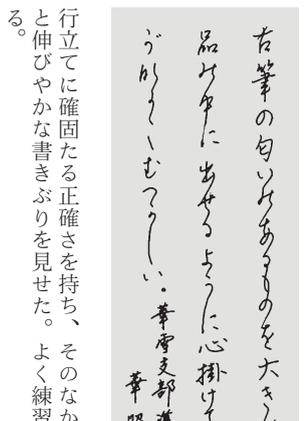
ための線で堂々と筆を運んだ。時折現れる切れ味のよい線が魅力的に情感を誘い、美しさに引き込まれる。

準師範 若竹 高橋 太一



リズムのよさが大変心地良い。よく練習されたのだから、躍動する連綿の中に微妙な細太の変化が楽しめる。

師範 華雪 千葉 華照



古筆の匂いのあるものを大々力作品に仕上げるように心掛けている。華雪支那準師範 華照

行立てに確固たる正確さを持ち、そのなかで堂々と伸びやかな書きぶりを見せた。よく練習している。

師範 瀬戸 白川 弘子

右筆の目尻のうしろのふたふたの
品々をいかにあざむらうに心掛ける
うりうりいびつーい
柳ノ半野 白川弘子

余白への意識が高く、上下左右行間に美しさを感じ
る。仮名の形も丁寧に把握し、正確である。

特待生 溪月 中川 光

遠い山には初雪が降り、美しい、
紅葉がひととき、わ色鮮やかな
秋の夕暮れ。 溪月中三半八 中川 光

一点一画細部まで注意が行き届き、行間もきれいに
まとめられていて好感が持てる。

特待生 大象 齋藤 美悠

遠い山には初雪が降り、美しい、
紅葉がひととき、わ色鮮やかな
秋の夕暮れ。 大象会 中三半八 齋藤美悠

文字に大小をつけ、調子よく書けている。文字か
ら人柄がうかがえるようなさわやかな作。

特待生 倭 長濱孔之介

遠い山には初雪が降り、美しい、
紅葉がひととき、わ色鮮やかな
秋の夕暮れ。 中三半八 長濱孔之介

鉛筆の書き方になれていてきれいな線で書けてい
る。「ハネ」「払い」が自然で上手い。

特待生 久喜 柳田 朋美

千曲川 旅情 久喜中三半八 柳田朋美

始筆、終筆の意識が非常に良い。日頃の学習の成果が表れている。柔らかな線質も魅力ある作品。

特待生 中野 頓所みなみ

千曲川 旅情 中三 頓所みなみ

繊細な筆使いが際立つ。作の形とらえ方も良い。本文と名前の書きぶりが程よく調和している。

特待生 美墨 小森 朱里

千曲川 旅情 中三 小森朱里

全体的に小ぶりに書きながら縦画を太くすることでの力強さを表現した力作。

特待生 水代 水野 彩音

千曲川 旅情 中三 水野彩音

文字の大小が自然で全体のまとめ方の参考になる作品。名前のおさめ方のバランスも良い。

特待生 上尾 竹村 楓子

千曲川 旅情 中三 竹村楓子

豊かな線と基本に忠実な筆使いが秀逸。全体のおさまりも良く、名前もしっかりと書けている。

師範 長翠



山本 佑光

師範 志摩



濱野 清遠

墨量豊かで軽快な筆さばきが見事。また、「暮」と「煙」をやや縦長にするなど計算された文字構成である。

師範 柏芳



嵯峨 孝尋

師範 自産



溝口 道幸

濃い目の墨を上手に使い、やや小振りにまとめた。線質は力強く、余白の美しさが光る明るい作品である。

準師範 玄黙



秦 頼山

準師範 飯田



三和実輝子

用筆法の安定感は抜群。文字の大小、墨量の変化など、まとめ方も要点を押さえている。余白に対する意識も秀逸。

線の太細を巧みに組み合わせ、軽快で明るい作品に仕上げた。全体感も良く、見事。

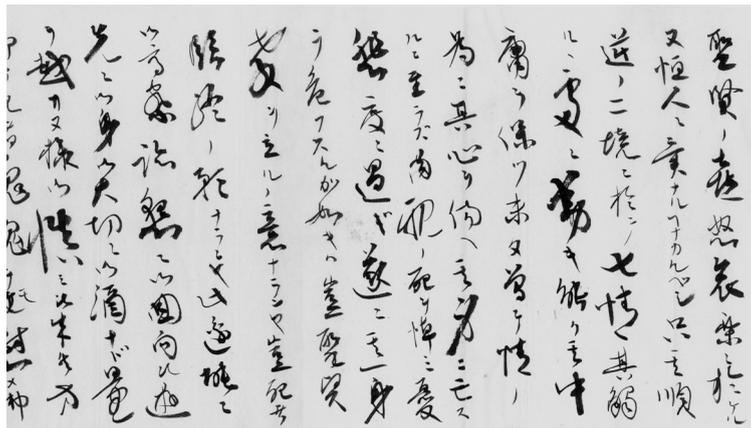
比田井天来先生の書簡に見える信山先生

寺尾 碩雲

「硯上の塵」によると、信山先生は昭和4年(22歳) 県展で二回目の最高賞を受賞し、審査員の天来先生より信山の雅号を授かった。また、信山先生が昭和37年10月「信濃教育」911号に書かれた『天来先生のおもかげ』(書家を志して昭和7年2月に天来先生を訪ねたときの内容)にはこうある。

「(前略) 本当に書をやるうというなら、書の根本である漢学をやっておくことだ。字ばかり習ってもいい書はできない。書には書卷の気とって、読破万巻という学問の裏付けが大切である。・(中略)・経書に目を通れば、聖賢の言葉にふれ、自然に聖賢の魂にふれることになり、人間が内につくられることになる。そこに本当の書ができる。」と天来先生よりご教示いただいた。

さて、①偶然にも稼堂先生への書簡(26歳・図版参照)の中にも「聖賢(の教え)」の文字が出てくるが、これが天来先生の哲学であり、稼堂先生に学んだ証と推測される。信山先生はその二か月後の昭和7年4月、教職を辞して上京。大東文化学院で漢学を学び、書を天来先生に二年間学ぶこととなる。また貞子奥様がよく「私と一緒にいるために上條は上京して、天来先生に学んだ。私も我慢した。」と話されたことも印象深い。②お二人の先生は奇しくも同じ26歳で漢学と書を志して上京された。③昭和37年の秋といえば先生の代表作「谷神不死」が世に出たときでもある。『天来先生のおもかげ』をすべて掲載できないことが残念であるが、信山先生ご夫妻の人生が方向づけられたときの日のことが熱く語られている。是非とも一読していただきたいものである。



天来先生から稼堂先生への書簡(明治31年11月1日26歳)

長野県佐久市出身の書家で、比田井天来(一八七二—一九三九)の未公開の書簡34通(佐久市五郎兵衛記念館が依田家より預かり保管)を寺尾が解読・研究したことが昨年11月20日の信濃毎日新聞朝刊のトップページに掲載された。新聞を要約すると①同郷の漢学者で恩師の依田稼堂とその息子の源七に宛て、20〜50代に書かれたものである。②稼堂が家族を亡くした書簡に触れ、好きなお酒を慎んでお体を大切にすることが朝晩の仏前の礼拝以上に死者の供養になる。③書的には藤原佐理や王羲之などを手本にした筆跡がある。④「寺尾教諭の研究によると、古典臨書に立脚した筆遣いは芸術性も高い。優しい人柄も垣間見える」と掲載された。また、今回の新聞掲載には、全高書研副理事長・小室墨汀先生と県高書研委員長・竹内墨洋先生からのアドバイスも大きかった。天来先生は16歳で依田稼堂主催の有隣塾で漢学を学び、書道を独習。26歳で上京し、日下部鳴鶴に師事。東京高等師範学校や東京藝術大学で教員も勤めた。古典臨書を重ね、新たな用筆法を生み出し「近代書道の父」と呼ばれる。書道教育にも熱心で、晩年には歴史上の字形の整理に尽力した。著書に「学書全蹄(がくしよせんてい)」がある。

平成27年11月20日付信濃毎日新聞朝刊参照

書象会通信条幅研究会 平成二十七年受賞者

◎最優秀賞

小林訪泉
齊藤汀霄
塩谷翠桐
島 谿曄

湯本香窓
横井萌玉
横川景城
横田四葉

高橋白羊
寺澤春清
戸塚豊翠
長江白羽

◎優秀賞

伊藤西光
遠藤翠雅
佐藤京香
竹野翠紗

嶋埜壺玉
下平南岳
宿谷硯心
瀬野照鈴

秋葉景華
鮎澤桂雪
和泉耀光
市村桜峯

西垣光風
根岸鈴華
長谷川竹心
初津壺博

立花壮山
三浦径石
矢島勇山

高田霽楓
高橋壺登
高橋天翠

伊藤水玉
井戸田翠真
稲葉京春

淵野黄華
牧 恵風
松尾詠舟
丸 芳玉

◎努力賞

青柳緑水
飯田天澄
井上雅幸
井上比富美

塚原花瑤
坪田泰舟
中島泰慧
永田智翠

今井華遥
岩成碧舟
岩橋祥風
牛丸峰泉

御子柴英遠
水本静香
峯村松韻
宮原紅玉

伊里草竹
岩月彩紅
上島壺霄
内海洋楓

針原伯翠
長谷川石心
野口翠滋
野野壺桜

大平遊月
上嶋聰雄
河田邦楓
川田鹿山

三和美輝子
村山麗恵
茂木壺梗
山口智真

大久保真景
大柳壺徑
垣内孝仙
春日光志

福井照雲
藤澤竹虹
堀之上峯山
増田ツル子

木下美泉
小島泰泉
小林天苑
小林南彦

山崎憬泉
山下 勇
山下桂耀
山下春波

加藤静花
加藤穆舟
上條窓苑
北村照節

三沢泰仙
三宅彩影
宮崎京楓
柳澤雪葉

齋藤美楓
坂井蒼峯
坂田良楓
佐々木永翠

齋藤美楓
坂井蒼峯
坂田良楓
佐々木永翠

倉谷聴月
北村照節
倉谷聴月

山崎惜春
山本草心

白川友梅

青柳緑水

◎皆勤賞

秋葉景華
鮎澤桂雪
和泉耀光
市村桜峯
伊藤水玉
井戸田翠真
稲葉京春

賞の内規

- ・最優秀賞Ⅱ一人一回限り、以後最優秀賞・優秀賞の受賞資格はなくなる。
- ・優秀賞Ⅱ一人二回までとする。但し一回の方は、最優秀賞の受賞資格を有する。
- ・最優秀賞、優秀賞、努力賞は、年間皆勤であることが、条件である。
- ・最優秀賞、優秀賞、努力賞には賞状並びにトロフィー又は副賞が与えられる。

平成二十八年 書象会講習会実施計画

平成二十八年の講習会・錬成会・講演会は、次のとおりです。ふるってご参加ください。

二月二十一日(日) 実技講習会「第五十五回書象展の作品をつくらう」

会場 武蔵野スイングホール
午前十時～午後四時

四月中旬～五月中旬 書道講演会(美術館見学)

講師 美術館学芸員
会場 都内美術館等
午後二時～午後四時

四月開催予定

かな会講習会

講師 内藤望山先生
会場 未定
午後一時～午後四時

六月十二日(日)

支部長講習会

講師 未定
会場 国立新美術館
午後一時三十分～午後四時

六月十五日(水)

実技講習会「信山流の書法」(基本・半紙編)

講師 高田墨山先生
会場 国立新美術館
午後一時～午後四時

八月上旬予定

夏季合宿錬成会

会場 静岡県浜松市 (予定)

十月中旬～下旬 実技講習会「信山流の書法」(半切・条幅編)

講師 高田墨山先生
会場 武蔵野公会堂 (予定)
午後一時～午後四時

「地区講習会」「支部強化錬成会」など、地区や支部長、会員の皆様のご要望に添えるべく努めますので、係までご相談ください。ようお願いたします。「地区講習会」「支部強化錬成会」の申込書式は本部迄お問い合わせください。なお右記日程会場は変更する場合がございます。

また、各研修会の詳細については、書象誌、ホームページ、支部長宛文書等でもお知らせする予定です。お問い合わせは本部事務局までお願いします。

研修部

信州書象会講習会に参加して

期日 十一月十五日
 会場 松本勤労者福祉センター
 主催 信州書象会



明るい会場で



虎井先生の講義

初めて参加した講習会会場は熱気にあふれかえっていた。「子供の手本の書き方」は市澤静山先生に午前中ご指導いただいた。午後からは「信山書法の基本の書き方」と題する虎井暁鐘先生の講義であった。両先生とも丁寧に一画一画思いを込めるように書かれているお姿が印象的であった。筆の始筆、送筆、終筆ともに筆の押し戻して戻しての弾力を使うこと、筆の折れ、曲がりでは筆を吊り上げることも教わった。リズムカルに生きたように筆を扱うことが重要であることがわかった。実技の時間が与えられ、何度も何度も、自分の筆の動きが教わった通りになっているのかを考えながら楽しく筆を運んだ。信山書法は筆を持つ腕が機械のように動くまで練習しなければ書けないことも分かった。先生が回ってくださり手を執ってご指導いただいた。筆の持ち方そして肩、ひじなどバネを腕の中に入れて書かなければ、なかなかバリの習得は難しい。練習を積んで一步一步学んでいきたい。(荒井 優記)

第7回 桂香会書展

期日 十月二十三日～二十五日
 会場 津市久居ふるさと文学館図書館ギャラリー
 主宰 森桂香先生



森桂香先生卒寿の書など



賑わう会場

秋たけなわの十月、第七回桂香会書展を開催いたしました。平成二年に第一回桂香会書展をしてから二十五年目となる今年は、桂香会長の卒寿の年でもあり、春より第七回桂香会書展を企画し、会場探しから始まった今回の展示会でしたが、三日間とも天候に恵まれ、多くの方々のご来場を頂きました。日の浅い会員は書象展に出品した作品を、長く続けている会員は他の展示会に出した大きい作品を展示しました。桂香会長も八月になってから卒寿記念となる作品「書は一生の稽古なり」を書き上げました。九十歳になっても書道が続ける桂香会長の書への思いは会員にとってもこれからの励みになることと思います。展示作品は三十数点と少なかったのですが、初めての書展という会員もあり、先輩の作品を見ることは作品作りの参考になったことと思われまます。会員数の少ない支部ですが、少ないなりに会員相互の交流を深め、さらなる成長を目指して研鑽に努めたいと思います。(山下桂耀記)

「筆作り体験」講習会に参加して

期 日 十一月二十九日
会 場 武蔵野公会堂

日頃何気なく使っている筆を自分で作れるというので参加させて頂きました。普段なかなか目にすることのできない、珍しい動物の毛や竹などから作られた草木筆にも触れることができ、感動の連続でした。更に、市澤先生、中村先生が様々な毛の筆を使って文字を書いてくださり、大変勉強になりました。それぞれの筆の持ち味を生かした多彩な表現は本当に素晴らしく、楽しく拝見させて頂きました。

筆職人の方による作業の一つ一つはとても細やかであり、一本の筆を仕上げるまでの丁寧な作業を見て、日々の使い方や洗い方をより大切にしなければと実感しました。実際の筆作り体験は難しく、なかなか思い通りにはなりませんでしたが、それぞれの思いが込められた世界に一つしかないオリジナルの筆が完成し、感激です。

和やかな雰囲気の中、筆作りを体験し、筆の奥深さに触れることができ、貴重な講習会でした。ありがとうございました。（原口華煌記）



豊富なサンプルに興味津々



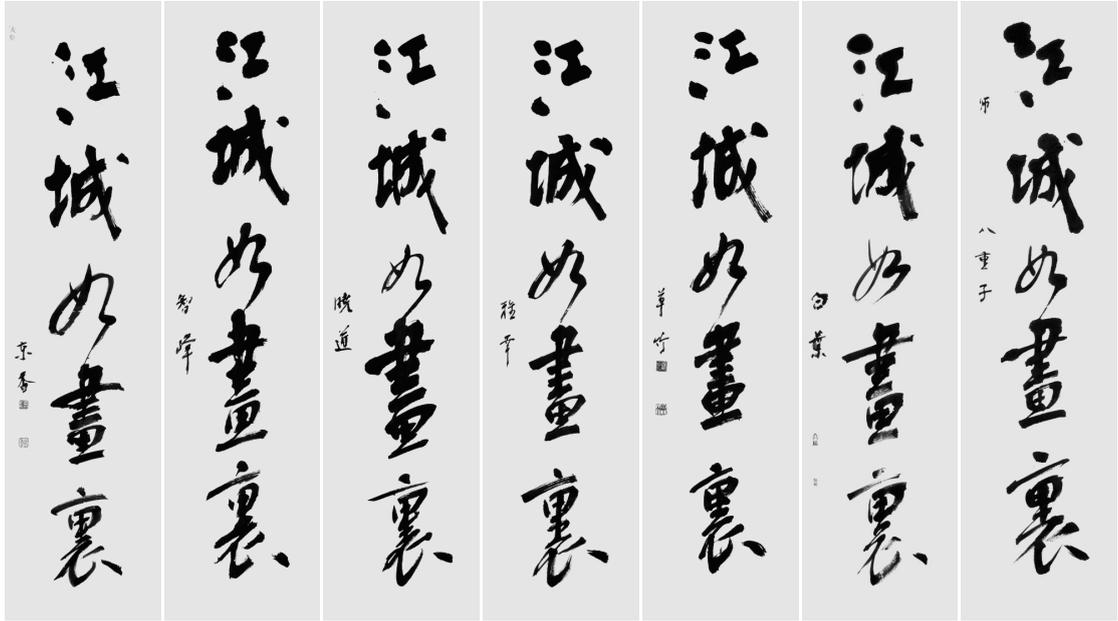
書き味はいかが？



筆づくり作業に取り組む参加者



プロの技に脱帽！



△漢字条幅▽ 評 芦川 臨泉

八重子 一字一字の空間の取り方よく、運筆大佳。

白葉 淡墨を上手に扱ひ、横画の美しさ秀でる。

草竹 一貫した線の太さで、若々しい線質。

雅幸 無駄な力が入らず、さわやかな印象。

曉道 五文字それぞれを生かした構成が見事。

智峰 墨量豊かで、一気に書かれた力強さあり。

京香 ふところの深い造型が印象的な秀作。

天遥 一点一画の揺るぎなさが際立つ見事な作。

△仮名条幅随意▽ 評 長谷川石心

西沙 墨色の変化が見事で、渴筆がよく効いた。

祥映 線が伸びやかに表現され、純粋な作。

壺峰 落款の位置よく、全体のまとまりよし。

△通信条幅▽ 評 樋口 玄山

加藤穆舟 全体感よくまとめられた作。線質も佳。

内海洋楓 隷書の特質をよく把えた品格高い作品。

島 谿暉 軽快な運筆。渴筆部にキラあり。



基本課題

評 大澤 梢光

霽 苑 波礫の伸びやかさと余白の美しい秀作。

翠 山 線にねばり強さをみせた気合の一点。

佐 美 爽やかで静かな雰囲気を感じさせる作。

翠 笙 明るく軽快なリズムで書き上げた。

研究課題 評 二瓶 嶽風

静 翠 豊かな線質でスケールの大きな作。

霞 菖 墨色の変化が効果的で明瞭な秀作。

京 江 しっかりとした逆筆で歯切れの良い作。

統 華 墨量豊かに深みのある線質がよい。

古典研究 評 露崎 玄峯

文 静 形の特徴をよくとらえ懐広くのびやか。

光 紗 直筆で強い線質、気迫あふれる作品。

賢 山 穂先が線の中心を通り粘り強く深い。

葉 曉 古典をよく観察し、写実に徹した佳作。

師範部

△行書△ 評 荻田 光山

雅 華 始筆から終筆まで意識が働いている秀作。

朗 仙 文字造形はもとより墨の味わい絶妙。

詠 草 伸びやかでおだやかな線質がすばらしい。

智 美 小ぶりな中に充実した筆緻が見事な佳作。

和 春 扁傍の特徴をとらえ、全体観も大佳。

香 窓 うまいと言わせしめる位置・形・大きさ。

花 仙 作者の美的感覚を想像させる美しさあり。

象 月 熟練の筆さばきが見事で、安定感ある作。



蓉 光 肉太で統一された線と余白がマッチした。

柏 園 六字の調和と余白の美しさが際立つ佳作。

翠 雅 淡墨と行意が融合し、味わい深い一作。

三 枝 子 無理のない連筆で、落款を含めて秀逸。

涛 仙 全体の行意が豊かに表現されている佳作。

淳 子 起筆が印象的。一字一字の形も見事。

笑 実 子 筆の扱い方がうまく、骨格の造型秀逸。

和 子 おおらかで、ふくよかな構成が目を引く。

△仮名▽ 評 寺尾 碩雲

福島玲秀 位置・形・大きさ・線質全てで佳。

大形涼華 ほどよく筆を開いてリズムよく書上げた。

青柳緑水 シャープな線質で品よくまとめあげた。

中島泰薫 肉太の線で堂々とした書きぶりがよい。

園部洋子 確かな用筆法で墨色の変化もよい。

関澤劍山 字形を横広にし、スケールのある作品。

桑野小瑠 鋭い線。渴筆がよくきいた作品である。

小松雅子 真面目な書きぶりで好感がもてる。

中田皓子 力みのない書き方で余裕が感じられる。

金山雨虹 線の細太を上手に表現できている。

木下翠笙 大らかで、癒しの雰囲気醸した作品。

佐藤茜沙 品よくまとめた。渴筆もうまく書けた。

中二 奇藤実里 暖房	二年 ま白く こころみ	四年 湯本 藍稀 あめ 細工	小六 小坂 早希 計画 実行画	船橋 中二三段 松井優奈 雪の大平原
小六 関谷 優 市場	小二 ま白く ふくいまいか	伊奈 二京 佳 あめ 細工	小六 澤井 麻優 子 計画 実行画	中二 中垣内萌志 雪の大平原
小四 鈴木 理紗 売	小一 ゆず すきゆうた	ひかる すみや 冬	前嵐 清 兼望 咲 山脈 遠い	中一 渡辺 紗衣 自信を 持つ
小二 あやめ 町	小一 ゆず あやめ	小三 後藤 雅登 すみや 冬	千曲 五 年 詩 山脈 遠い	廣田あかり 自信を 持つ

学生部

評 二瓶 嶽風

松井優奈 一点一画確かな筆使いの見事な作。

中垣内萌恵 適切な大きさで余白の美しい作。

渡辺紗衣 ふくらみがある暖かい線が大変よい。

廣田あかり 気持のこもったていねいな書きぶり佳

小坂早希 大ききのびのびと自信を持って書いた。

澤井麻優子 紙面に大ききよく注意深く書けてよい。

清兼望咲 豊かな線で全体感よくまとめた秀作。

細貝詩音 思い切った書きぶりで雄大な作。

湯本藍稀 じっくりと心をこめて書きあげました。

原田京佳 強い線で形よく堂々としたみごとな作。

林田ひかる ていねいに気持をこめて書きました。

後藤雅登 ゆっくりと大事に書くすがたがみえます。

柳沢心美 さいごまで力をぬかないでかきました。

福井舞花 一じじしっかりかいてとてもよい。

鈴木雄太 ふとく力づよくどうどうとかけました。

浅井りのや 力あふれるみごとなさくひんです。

半紙 随意

評 竹内 藍山

齊藤実里 伸びやかな線質で位置・形ともに良い。

関谷 優 一点一画正しい書きぶりで明るい作品。

鈴木理紗 正しい形と筆づかいが素晴らしい作品。

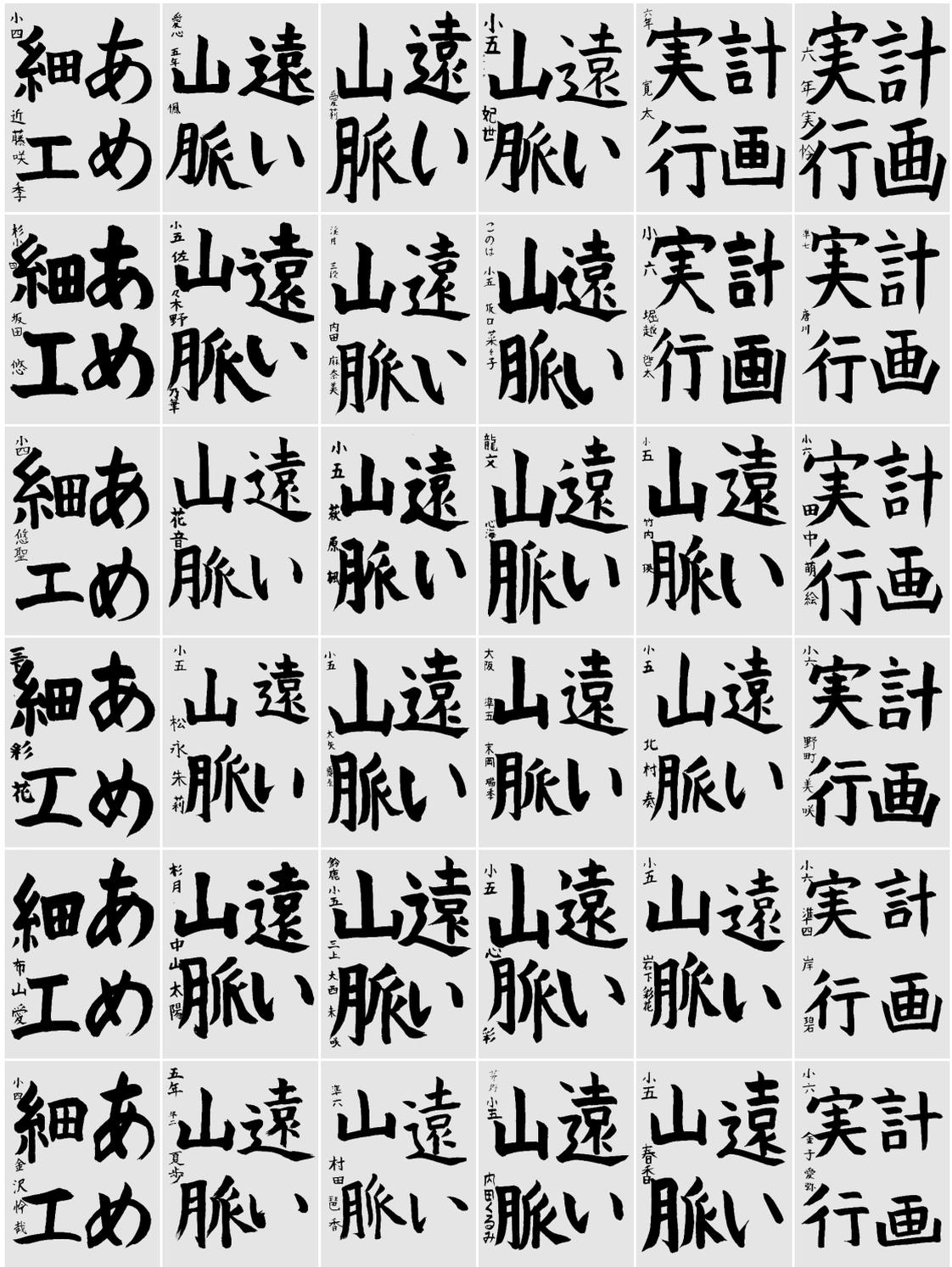
あやめ 大きくゆったり書けました。形も良い。

このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

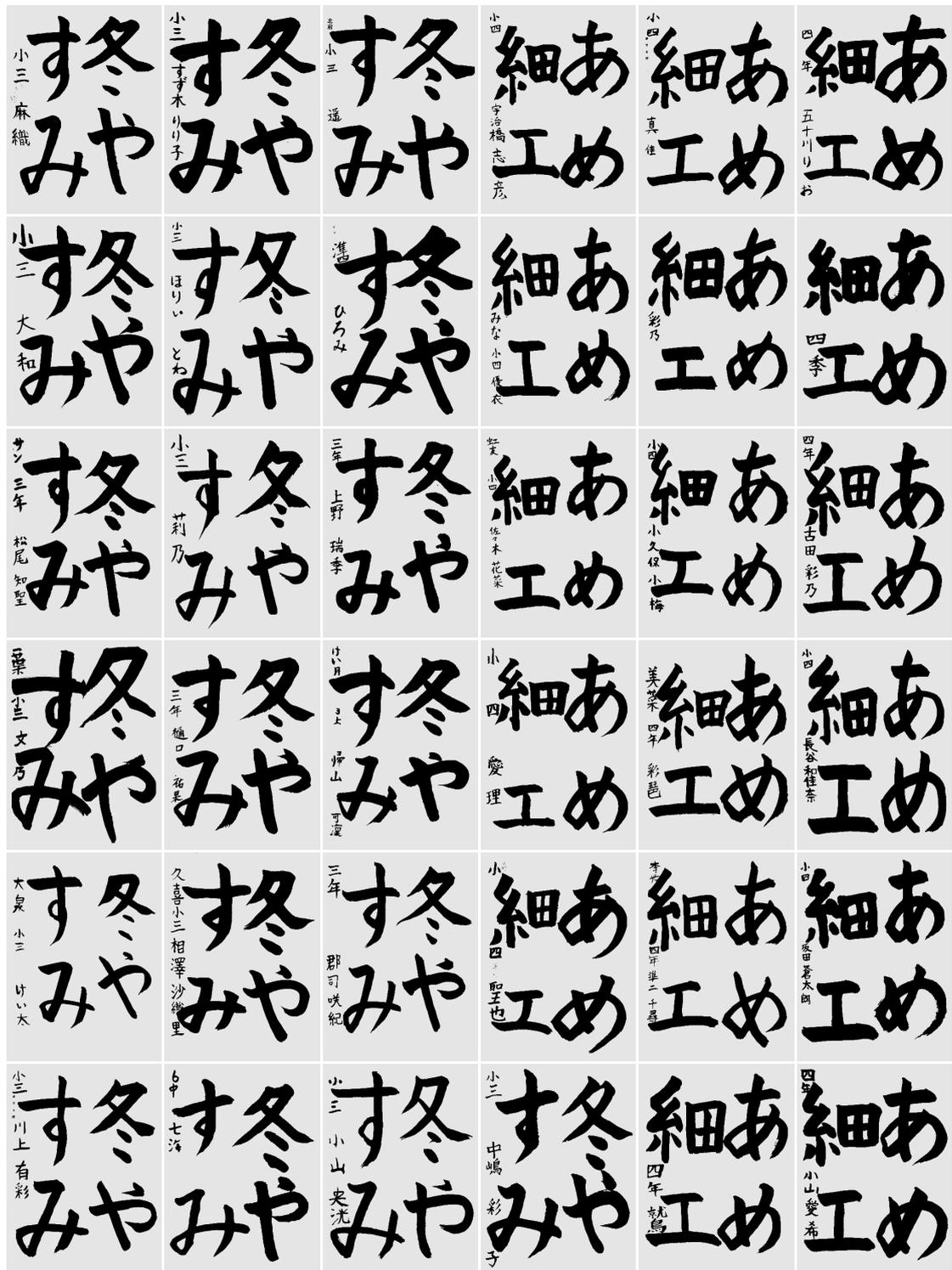
- (行書)
- (段位)
- 瀬戸 波多野夏子
名東 大津伸子
相模 松本正志
湊 藤森美奈江
笠原 吉水安芸
芙蓉 池田理忠
若竹 西嶋洋一
船橋 上 舞
静墨 林上 吟
游墨 赤井恵美子
央松 吉田 女和
若松 一ノ瀬涉子
- (級位)
- 国府 細野恒子
土筆 空閑 郁恵
秋川 松村 希
有象 伊達 知志
晏墨 後藤 大志
八潮 恩田 梓沙
奈良 統 梓
千曲 唐津 香里
石峰 青木 香里
備後 近藤アサコ
- (假名)
- (段位)
- 聖二 吉池恵美子
横二 高橋辰雪
心和 西沢由香理
柏心 寺尾春美
大象 林 照子
聖下 宮下 藍
高風 佐孝美也
優生 宇田川 桜子
杉 野田三和古
石峰 唐津由香里
富貴 河辺 眞由
秀雪 河辺 眞由

小六 美夢 実計 行画	小六 小六 心林まづ明 実計 行画	中一 齋藤源慶 自信を 持つ	中一 石原萌花 自信を 持つ	中三 北原芽 雪の大 平原	中三 大田弥悠 雪の大 平原
小六 小六 佐野 実計 行画	小六 月美 実計 行画	中一 徳竹凜 自信を 持つ	中一 土筆中一 山崎ひかり 自信を 持つ	中二 野笑 雪の大 平原	中二 達真 雪の大 平原
六 年木多美空 実計 行画	小六 明歌 実計 行画	中一 山下侑華 自信を 持つ	中一 龍又 ほのか 自信を 持つ	中一 寺門祐希 自信を 持つ	中二 慧太 雪の大 平原
小六 中谷理紗 実計 行画	小六 萌 実計 行画	小六 菅野楓 実計 行画	中一 真澄美乃 自信を 持つ	中一 佐藤光 自信を 持つ	中一 上尾中三 竹村楓子 雪の大 平原
小六 六年六段風沙 実計 行画	小六 明里 実計 行画	小六 佐久間 萌可 実計 行画	中一 二波 永平梨紗 自信を 持つ	中一 小山愛乃 自信を 持つ	朝日 雪の大 平原
六年 白濱輝 実計 行画	小六 佐藤 優衣 実計 行画	六年 留菜 実計 行画	中一 豊田真夕 自信を 持つ	中一 名 中一 準四 雪本純平 自信を 持つ	中二 手島貴子 雪の大 平原

〔毛筆〕
 華雪 太田 弥悠
 静雪 山田 遼真
 秀雪 常田 慧太
 上尾 竹村 楓子
 珠紅 村松 朝日
 八潮 手島 貴芽
 高社 北原 芽
 晴美 佐々木 野愛
 〔中一〕
 竹華 寺門 祐希
 霞墨 佐藤 光
 若竹 小山 愛乃
 名東 雪本 純平
 大象 石原 萌花
 土筆 山崎 ひかり
 龍文 小川 ほんか
 虹苑 真壁 美乃
 美五 永峯 梨紗
 中央 豊田 真夕
 砚扇 齋藤 源慶
 中野 徳竹 凜
 華雪 山下 侑華
 〔小六〕
 有象 菅野 楓
 霞墨 佐久間 萌可
 花蓮 高田 留菜
 青雲 小林 蒼明
 光丘 千葉 月美
 華雪 大石 明弥
 玄機 横山 明
 蓮田 原山 明里
 静翠 佐藤 優衣
 綾華 松本 美夢
 小光 藤本 美理
 北府 本多 愛空
 李光 中谷 理紗
 正桂 白濱 風沙



中央	玄黙	石峯	月三	杉坂	名東	東陽	杉月	飯山	雅山	硯扇	愛心	芙1	鈴鹿	高社	長寿	溪月	若松	茅野	名東	大阪	龍文	この	華雪	光丘	倭墨	霞墨	志摩	〔小五〕	さわ	峰	純心	折原	倭野	秀雪	美二	山愛
金沢	布山	野本	三戸	坂田	近藤	細野	中山	松永	山口	佐々木	山田	村田	大西	大矢	萩原	内田	内田	内田	鈴木	末岡	榎村	坂口	又場	栗戸	岩下	北村	竹内	堀越	坂本	金子	野中	田中	唐川	松岡		
怡哉	愛花	彩花	悠聖	悠悠	咲季	夏歩	太陽	朱莉	花音	乃華	楓	香	未咲	優奈	楓	奈美	愛莉	くるみ	心彩	瑞季	心海	菜々子	春香	春花	奏	瑛	啓太	寛太	愛弥	美咲	碧	絵	くら	実怜		



華雪	大泉	一葉	サン	有虹	有穂	宮川	久喜	シイ	光丘	凜心	若葉	若竹	皓花	溪月	源創	美二	北府	倭	中野	有虹	虹友	みな	照澤	山愛	李光	美菜	ひま	玄樸	華雪	シイ	練馬	瑞祥	平成	りん	湊
川上	稲垣	本村	松尾	棚澤	小野	佐藤	相澤	樋口	滝田	堀井	鈴木	小山	郡司	山	山	上野	酒井	島崎	中嶋	藤木	井口	佐々木	田村	宇治橋	中山	山口	長谷川	山ノ内	味本	小山	坂田	長谷	古田	宮下	五十川
有彩	啓太	文乃	知聖	大和	麻織	七海	織里	祐果	莉乃	永遠	莉理子	央流	咲紀	可凜	瑞季	裕美	はるか	彩子	聖也	愛理	花菜	優衣	志彦	鷲	千尋	彩琶	真佳	愛希	蒼太朗	和佳奈	彩乃	四季	璃音		



練馬	書之	前原	成城	富貴	華雪	美苑	美二	新城	竹華	城彩	御代	玄嶽	星	湊	霞墨	神奈	富士	松聲	和	葉月	大阪	華雪	聖	光丘	皓花	好野	西	北府	秀雪	仙台	宮地	宝春	美菜	硯	右文
每田	西村	松本	田上	進	木村	三宅	長谷川	河野	柿沼	山中	土屋那璃愛	松村	真砂	小内	肥内	山城	野口	奥田	関口	中桐	塚原	藤田	栗戸	粟戸	道上	白井	小林千咲音	加藤	森山	鈴木	駒屋	小霜	才木	松本	
侑希	友翔	健	蓮	美優	奏斗	莉子	萌衣	成実	里緒	愛名	夏朋	裕太	美優	理紗	慶亮	千鶴	一志	姫歌	珠德	晴音	琴和	希海	一成	実愛	紮愛	静香	静香	優女	大翔	七海	優芽	夏朋			

古典を基にしたもので作
品を作るころが一番大仰い
ころである。

若い世代の苦悩を描いた大作
「チボー家の人々」は、全世界の
読者を感じさせた。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化を
楽しめませす。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化を
楽しめませす。

お友だちの家で、クリスマス
会のケーキ作りをする
予定です。

お友だちの家で、クリスマス
会のケーキ作りをする
予定です。

学校のうさぎを見
つけたり見カード
をつくら

古典を基にしたもので作
品を作るころが一番大仰い
ころである。

若い世代の苦悩を描いた大作
「チボー家の人々」は、全世界の
読者を感じさせた。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化を
楽しめませす。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化を
楽しめませす。

お友だちの家で、クリスマス
会のケーキ作りをする
予定です。

学校のうさぎを見
つけたり見カード
をつくら

学校のうさぎを見
つけたり見カード
をつくら

貧乏傑士をまじ動業多難に
顕る雲に耐うて梅花潔く霜
を経て楓葉あり

若い世代の苦悩を描いた大作
「チボー家の人々」は、全世界の
読者を感じさせた。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化を
楽しめませす。

お友だちの家で、クリスマス
会のケーキ作りをする
予定です。

お友だちの家で、クリスマス
会のケーキ作りをする
予定です。

学校のうさぎを見
つけたり見カード
をつくら

学校のうさぎを見
つけたり見カード
をつくら

若い世代の苦悩を描いた大作
「チボー家の人々」は、全世界の
読者を感じさせた。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化を
楽しめませす。

日本の気候は四季がある
ので、春夏秋冬の変化が
楽しめませす。

お友だちの家で、クリスマス
会のケーキ作りをする
予定です。

〔硬筆〕

〔一般〕

- 巍山 安蒜 小映
志摩 溝口 道幸
光丘 友野 和恵
八潮 宮本 恵美
玄機 南 紗英
有象 尾野 莉有
書之 高橋 夏樹
〔小五・六〕
一絵 鈴木麻理奈
湊 花岡 菜奈
倭 深川穂乃花
有穂 北島 佳奈

〔中学〕

- 美菜 佐久間美来
石峯 瓜生 莉央
みな 木村 明恵
飯山 森 ひかり
浅岡 飯島 晶子
大阪 飯島 沙織
浅田 森 ひかり

〔小一・二〕

- 山愛 郷農 桃子
華雪 佐々木春奈
皓天 中山 にご
大田 森 椿姫
北府 青木じゅり

〔小三・四〕

- 正桂 松井 伸
若松 川島 実佳
大象 塚越 健太
飯山 飯島 晶子
浅岡 飯島 沙織
浅田 森 ひかり
大坂 飯島 沙織
浅田 森 ひかり

Main content table containing names, titles, and categories for various groups. Includes sections for '愛心支部', '西支部', '上尾支部', '朝日支部', '飯田支部', and '飯山支部'. Each section lists members and their respective titles or roles.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Main content table with multiple rows of text, numbers, and names. Includes various symbols like stars and circles, and sub-sections like '往郷支部' and '荷葉会支部'.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

岡山・京都・久喜・蔵・深月・玄嶽・硯扇・源創・玄樸・玄黙・虹苑・高社・紅竹・高風・虹友・琉山・この葉・彩筆・桜木・さざなみ・さわらび・サン・山愛・杉月・シール・パス・志摩・秀雪

Table containing names and symbols (circles, squares, triangles) organized in a grid. The grid is approximately 10 columns wide and 40 rows high. Symbols are placed around the names, often indicating specific categories or statuses. The names are written in small characters, likely representing authors or artists. The symbols include circles (some with numbers inside), squares, and triangles, some of which are filled or have specific markings.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末に発表。

秀雪・珠紅・珠悠・春風・純心・小光・城彩・松聲・知床・新城・瑞祥・杉・須坂・鈴鹿・硯・靑雲・正桂・成城・静翠・碩雲・石峯・仙台・蒼穹・大家会・竹華・千曲・茅野・中央・長寿原・月

Main content table with columns for names and their corresponding performance levels (e.g., 7準特, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, 準初準, 準, 3, 2, 準初準, 準四, 準五). Includes names like 七準特, 八待, 朝葵, 日加美, etc.

□は写真版(昇級しない) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段とは異なる) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段とは異なる) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段とは異なる)

Main content table with multiple rows and columns containing names, grades, and symbols. The table is organized into sections by grade level, with rows representing different groups and columns representing individual members. Symbols like stars and circles are used to denote specific attributes or achievements.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

松戸・三池・水代・美苑・美菜・湊・みなみ野・峰・宮川・宮地・雅・御代田・名東・八潮・倭・有象・有象虹・有穂・優生・石文・横浜第一・好野・李光・龍文・綾華・源心

Main content table with multiple rows of text, numbers, and names. Includes various entries like '6 4 3 2 1 1 特', '8 5 4 7 6 4 準', etc., and names like '渡野山監齊今関竹草', '藤樋森口未佳', '木佐兒西尾藤森小山嶋嶋原本', etc.

Table with 4 columns and 10 rows of names and grades. Includes categories like 準一級, 初段, 二段, etc. and various branch names like 和支部, 麗墨支部, etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

書象通信指導規定

書象誌会員は次の規定により、通信指導を受けることができます。
一、指導内容 毎月の本誌競書課題、その他古典学習
二、申し込み方法 下記のいずれかの先生に直接申し込む。
(返信用封筒を切手貼付の上、同封するこ)

※通信指導費改定

Table with 2 columns: 添削料 (三、〇〇〇円), 半紙一本 (一、〇〇〇円), 手本料 (一、〇〇〇円), 一体につき (一、〇〇〇円)

一、指導の先生

- List of names and addresses: 荒木扇舟 (山形市小白川町四二〇一四), 石丸暁風 (大和市草柳二二二一四), 市澤静山 (所沢市北所沢町二二四一), etc.

- List of names and addresses: 小瀨石峯 (志木市館二一八一三〇八), 杉山暁雲 (杉並区阿佐谷北四一七五), 高瀬霞山 (かすみがうら市稲吉東四一〇一七), etc.

書道教室紹介ページ申込みについて

書象会ホームページでは書象会の活動や上條信山先生の紹介、書象誌に関することや展覧会の案内に加え、書道を習いたい人向けの『書道教室紹介』のページを掲載しております。

- 1 申込方法 支部紹介掲載ご希望の先生は、ホームページ掲載登録用紙を書象会本部迄ご請求ください。登録用紙が届き次第、支部紹介登録用紙【A】もしくは支部紹介登録用紙【B】のいずれかを選び、書象会本部までご返送ください。申込用紙の送付と費用振込の確認完了次第、順次ホームページに掲載いたします。
- 2 掲載内容 支部紹介登録用紙【A】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。また「教室のPR」と「支部長先生ホームページアドレス」を掲載します。
支部紹介登録用紙【B】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
- 3 年間登録料 支部紹介登録用紙【A】→年間2,000円
支部紹介登録用紙【B】→年間1,000円

※書象会ホームページの書道教室紹介ページに関するお問い合わせ等は、書象会本部までお願いいたします。
書象会ホームページ「書道教室紹介」はこのアドレスでご確認ください。

shoshou.com で今すぐクリック

書象会便り

◆第78回謙慎書道会展添削会

標記の第二回添削会が一月十一日(祝)武蔵野スイングホールにおいて開催されました。当審査員の先生方から一点一点丁寧な諸注意や添削指導が行われました。二月十一日(祝)の作品提出には努力作品が出品できるように頑張りましょう。

◆平成二十八年年度理事会

一月十一日(祝)午後四時から武蔵野スイングホールにおいて、平成二十七年年度事業報告ならびに決算報告、平成二十八年年度事業計画ならびに予算案等が、協議の上、承認されました。

《書展予告》

☆第23回神奈川県代表書家展

会期 二月十八日(祝)～二十四日(祝)
会場 守玄齋(ゴールド文具内) 桜木町駅前
出品者 石丸暁風(本会関係)

《書展報告》

☆第七回桂香会書展

会期 十月二十三日～二十五日
会場 津市久居ふるさと文学館図書館ギャラリー
主宰 森桂香先生

☆第56回熊日書道展

会期 十二月十五日(火)～二十日(日)
会場 熊本県立美術館本館
本会関係出品者 委嘱 吉澤蒼雲
無鑑査 小柳貞松 中川汀松
入選 志垣嘉納子 原秀石

☆第65回福井書法展

会期 十二月二十四日(祝)～二十七日(日)
会場 福井県立美術館
本会関係者
《特別部門》特別賞 長谷川清風
出品 齊藤祥仙
《一科》特選 中本裕子
秀作 清兼実紅
入選 谷川裕香

《一科》特選 服部佐和子

秀作 北川高月 佐孝美也子

《審査員》特別部門 畑中高山

入選 山田真菜
畑中高山 藤井憬花
畑中高山 藤井憬花
二科 齊藤祥仙

実技講習会

「第五十五回書象展の作品を作ろう」

日時 二月二十一日(日)

午前十時～午後四時

会場 武蔵野スイングホール

講師 中村巍山先生

会費 三千円

申込 書象会本部までお早めにお申込みください。

(当日会場でお支払いください。)

☎〇四二二(五三) 九七四三

(研修部)

氏名

発行人 (有) 書象
代表 上 條 貞 子
東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
郵便番号 180-0001 電話 〇四三(五三)九七四三
振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
振替名義 (有) 書象
印刷所 株式会社 リンクス